



### I-OWA マンスリー・セミナー講演より 渋沢栄一の「論語と算盤」未来を拓く

講演： 渋沢 健氏  
レポーター： 赤堀 薫里

#### 渋沢 健氏プロフィール

1961年、渋沢栄一の5代目子孫として誕生。1987年、UCLA 大学 MBA 経営大学院を卒業。外資系インベストメント・バンク、ヘッジファンドなどを経て、2001年、シブサワ・アンド・カンパニー株式会社創業。2007年、コモンズ株式会社創業。2008年にコモンズ投信会長となる。公益財団法人渋沢栄一記念財団非常勤理事、日本医療政策機構理事、認定NPO 法人健康医療評価研究機構理事、日本ファンドレイジング協会理事などを務める。

渋沢栄一は銀行のことを「大きな河のようなものだ。銀行に集まってこない金は、溝に貯まっている水や、ポタポタ垂れている滴と変わらない。折角人を利し、国を富ませる能力があってもその効果は表れない」と例えました。

お金は資源ですが、それがポタポタ垂れ流し状態になっているのであれば、そこに力はない。明治、大正、昭和の経済発展は、国民のお金が一滴一滴ずつ集まり、それが流れ始め、その流れによって日本の経済発展が支えられました。日本の資本主義の原点はこのような所にあったと思います。格差を生むことを目的としていたわけではない。流れは、現在から未来に向かい、今日より良い明日に向かい、成長性がある資金の大河だと思います。その流れを作るのが銀行の役目であり、期待されていました。



お子さんに「金融とは何？」と聞かれた場合、「お金を待っている人と、お金を必要としている人をつなげるのが金融なのだよ」と説明するでしょう。その説明にもう少し加えると、現在から未来に向かって成長性のある、未来志向がある資金を社会に循環させることが金融業界の原点であると思います。



## 長期投資仲間通信「インベストライフ」

共感すると、散らばった存在が集まる力になります。我々のお金を安心な所に預けたいという思いで銀行に集まってきます。ただし、集まっただけでは必ずしも行動に移らない場合があります。それは、強弱、濃淡、得意不得意と凸凹感があるからです。

もう一つの大切なキーワードは「共助」。「共助」とはお互いに足りないところを補い合うことです。それができれば、先ほどの凸凹感がなくなり物事が動き始めるわけです。「共感」「共助」を合わせると足し算になります。その足し算がしっかりできれば掛け算に進めます。その掛け算というのが「共創」。共に創ることができれば、新しいクリエイションを繰り返していく。これができれば掛け算の効果だと思えます。

渋沢栄一は資本主義の父と言われていますが、自分自身は資本主義という言葉は使っていません。言葉として残っているのが「合本主義」。合わせる力というイメージだと思います。



私の考えでは、資本主義の原点である合本主義は、共感によって寄り集まり、共助によりお互いを補い、今日より、より良い明日を共に創ること、共創することが合本主義ではないかと思えます。

渋沢栄一は500社くらい会社の設立に関与し、他にも大学等教育関係、病院、社会福祉施設に関与した件数は600位あるといわれ、数としては会社よりも多いと言われています。どうして、このような組織を沢山作ったのかというと、渋沢栄一の目的は、国力を高めるためだからだと思います。

だから単純にお金を集めるだけではなく、人材や国のリソースを如何に集めて、今日より良い明日に向かっての未来を作っていくのか。それが結果として、渋沢栄一が合本主義という手法にたどり着くことになったのでしょう。

渋沢栄一のトレードマークである「論語と算盤」の書籍の中で、「その経営者1人がいかに大富豪になっても、そのために社会に多数が貧困に陥ることでは、その幸福は継続されない」と言っています。稼ぐことを否定しているのではなく、自分だけのために独り占めするようなことをすると、自分自身の幸福は継続しないかもしれないという警告です。正しい道理の富でなくては、その富は完全に永続できない。だから、論語(道徳)、算盤(経済)というかけ離れたものを一致させることが今日の大切な努めなのです。



## 長期投資仲間通信「インベストライフ」

この後講演では、「と」の持つ力と「か」の持つ力の違いについての解説。2020年からの日本への展望についてと、21世紀の繁栄モデルについての説明。最後に枠のウチとソトについて興味深い解説をいただきました。

渋沢さんにとって高祖父にあたる渋沢栄一さんの「論語と算盤」は過去のイメージがあるように思われていますが、昔の言葉を使いながらどうやって現代において実践していくのか、未来について語っていただきました。



### I-OWA マンスリー・セミナー講演より

### 渋沢 健氏、勝池 和夫氏とのフリーディスカッション

渋沢 健氏、勝池 和夫氏、参加者のみなさま  
レポーター：赤堀 薫里

岡本 | 私は個人的には渋沢さんの「枠」のお話が面白かったです。先月、私達の意識はすごく小さく、今の自分という小さな箱の中に入っている。その時間軸と空間軸をどれだけ大きく伸ばしていくのが大切であることをお話しました。伸ばしていくということは即ち共感ということであり、そこに共助という要素が入ります。空間軸を大きく伸ばすということは、分散投資を究極まで進めることであり、時間軸を伸ばすということは、長期投資をすること。長期分散が必要だということは、大きな原理に合致したものです。自分のためにいいことではなく、会社のためにいいこと。会社が売り手であれば、買い手にとってもいいこと、更に世間にとっていいことである三方よし。これもやはり空間軸、時間軸の拡大につながっていくわけです。

いろいろな意味で我々の意識がいかに広がっていくのか。小さいところから言えば、いつも自分のことだけではなくて、少しは人のことも考えてあげる。そのような意識が少しずつ増えていだけでも、世の中全体が良くなっていくのではないかと思います。

その第一歩が「一日一善」。資産運用も、すごくいい勉強の材料だと思います。お金のことを勉強すればするほど、我々は空間軸でみてご縁のネットワークの中で生きていて、投資は時間をどう使うのかということだとわかってきます。時間をどう使うのかということは、どう生きるのかということ。投資やお金の勉強を続けることは、「ご縁のネットワークの中でどう生きていくのか」ということにもつながります。

参加者 | 今、AI は未来を予測というか、想像できると言われていますが、そのような情報はありますか。

渋沢 | いずれそうなるのかもしれませんが、僕はまだ AI は想像ではなくて、莫大なデータからの分析の答えだと思います。だから、不完全な情報から出た答えではないと思います。人間は不完全で断片的な情報を持っているにも関わらず毎日答えを出します。例えば、「この人はこうだ！」とか、「絶対上がる」というように。それをAIはできないでしょう。いずれそうなるかもしれませんが、今の段階ではできない。特に AI と人間の脳はエネルギーの消費量が全然違うようです。AI はプログラミンなので莫大なデータを解析することでものすごくエネルギーを消費します。しかし人間の脳は、全然エネルギーを使わないようです。そこをサポート



## 長期投資仲間通信「インベストライフ」

ートする電力発電のキャパが世の中にあるのか疑問です。今後のエネルギーについて処理技術が高まっていくとは思いますが、今の延長ですと、そのような議論があまりされていない気がします。

参加者 | AI が人間の能力を超えることではないですよ。怖い点は、AI が絶対できないことを人間がやらなくてはならないのに、AI ができないことの方が、実は人間も低いということです。AI はしょせん計算機ですから。計算機というのは「0か1」の「か」の世界です。全部「0か1」に置き換えるのがシステムです。でも人間は「0と1」が共通する部分は何があるのか考えることができます。その意味を読み込むことが人間にはできるのに、AI にはできない。しかし、それを人間がだんだんできなくなっていることが問題だと、最近話題になった新井紀子さんの本に書いてありました。僕もそう思います。今日のお話の中で「と」と「か」の話がすごく印象に残りましたが、まさに「か」が AI の世界で「と」は違うと感じました。

岡本 | 渋沢さん、今日はインドや中国に造詣の深い勝池さんもいらっしゃっています。インド投信についてはどうお考えですか。



渋沢 | 僕は良いと思いますよ。中国の人口動態は少子化しているじゃないですか。インドの課題は一つの国ではないということですよ。

勝池 | インドでは昨年 2700 万人の新生児が生まれています。日本は 94 万人でしょ。中位年齢がインドは 27 歳、日本は 47 歳。インドは世界で一番認知症が少ない。恐らく AI は脳の代替、ロボットは体の代替でしょう。日本は高齢化になってくるので、頭はぼけるし体も衰えるからわかります。ただ、AI にもロボットにも代替できないものは気持ち、心です。中国は体を使う。インドは頭を使う。日本は気を使う。本当にそういう意味では中国とインドは忖度なしですよ。日本はすごく忖度がありますよね。比較的中国ではアイデンティティの危機との問題があります。アメリカではネットでどんどんつながるけど、気持ちは隔離、孤立している。温かく迎えてくれるところはどこかということで、訪日外国人客が多いじゃないですか。日本に来てくれる外国人を増やす。外に住んでいても日本の精神によって作られたものを買う外国人を増やす。それで人口減少を代替する。これしか生きる道はないと思います。

渋沢 | 以前、18 年位日本に住んでいて、9 歳のお子さんがいらっしゃるインド人夫婦とご一緒しました。その時インド人の奥さんが「私、他の所に住めない」と言うのです。日本は安全だから



## 長期投資仲間通信「インベストライフ」

小さい子供が勝手に走って行っても気にしなくてもいい。インドやアメリカ等であれば、ちゃんと手を握っていなければ何が起るのかわからないわけです。

勝池 | 安全な所に住んで、成長するところに投資をすればいいわけです。

岡本 | 日本は中国やインドとどう付き合っていくといいでしょう。

勝池 | インドはスパイスの国でしょう。いろいろなスパイスを集めてマサラを作る。発想が横です。だからネットワーク系に強い。取りあえずやってみる。

日本は縦、つまり発酵です。日本酒や納豆のようにあまり混ぜない。インドはいろいろなものが集まるダイバーシティの国だから、A～Zまで説明しないとできない。でも日本人はA～Zまで全部説明しなくても類推します。インド大使館で開催する何かのセミナーの時は、膨大な資料のもと、12人が話します。聞いている方が迷惑ですよ。でも彼らはそれをしたい国なのです。だからまとまらない。発想が違いますね。

中国との付き合い方の一番の問題は日本の人口です。今は、1億2600万人ですけど、2050年にはインドは17億です。日本は1億。今、本州に住んでいる人だけでも1億数百人です。北方領土や尖閣諸島はどうなってしまうの？人がいなくなれば領土もなにもないわけですよ。そういうビジョンが全くないから、「子どもを産みましょう」と言っても響かないでしょ？日本独自のビジョンを出して共感させてやるしかないと思います。それは、もしかすると倫理的な考え方かもしれませんね。中国では倫理がやや弱いところがあります。インドはありますけどね。失われた20年と言われますが、日本は環境と治安は失われていません。中国とインドはかなり失われていますから。アメリカもそうですね。それを説明して打ち出すことでいくらでも立ち直すチャンスはあります。



参加者 | 渋沢さんのお話で30周年周期というものがありません。現状、人口は減ってきていますね。2025年問題の後期高齢者が増えますね。製造業自体も主要な経済構造ではない。日本の2020年以降が明るくなる原動力はなんのでしょうか。

渋沢 | 世代交代だと思います。過去の成功体験を持った人たちが端的に少なくなり、過去の成功体験を持っていない人達が社会の主役になるということになる。今日、お話したことは、過去の成功体験です。それだけの延長では豊かな未来は描けないと思います。それでは何になるのかというと、インド人の主婦が日本のことが好きだとか、今、観光客もすごいで



## 長期投資仲間通信「インベストラ이프」

すよね。豊かな環境もあります。別に自分達の人口をガンガン増やさなくても、テクノロジーを使いながら豊かな生活を送れるモデルはあると思います。だから山奥の田舎のスポットを外国人が見つけて来てくれるわけです。もう少し日本人は自分達の国土の中にある豊かさを認識した方がいいと思います。どこに行っても食べ物は美味しいですよ。水はどこに行っても軟水で安全に飲める。

岡本 | 今どんどん減ってきている戦争体験のある人達は、行動を見ていると非常に体力も精神力も強いと思います。我々、終戦直後生まれの私のような世代がひ弱に見えるくらい強いと思います。同じように東北の震災や、九州、熊本の震災で極端な災害を受けた所から、多分 2020 年ぐらいからものすごく日本を大きくリードするような人達が生まれてくるのではないかと淡い期待と希望を持ちますね。今日もありがとうございました。